

らいき  
**来喜** キャベツ

2008年1月に発覚した中国製冷凍餃子の中毒問題は、日本中に大きなショックを与えました。食の安全・安心が唱えられる昨今、私たちの食生活を見直す良い契機となり、国内産農産物への回帰に弾みをつけることとなりました。

冷凍食品の原材料として、国産農産物の需要が益々見込める中、業務用キャベツとして開発された「来喜」は、今、国内の産地から熱い注目を集めています。



他社S種との比較。「来喜」(右)の締まりの良さがわかる。  
2月10日播種 3月25日定植 6月12日撮影  
弊社岩井研究農場(茨城県坂東市)にて撮影

「来喜」導入の実例

大手加工業者様 (千葉県館山市)

2008年4月15日撮影 3342黒マルチ使用 厳寒期はベタがけ



他社S種

播種：2007年10月中旬  
定植：2007年11月27日



来喜

播種：2007年10月中旬  
定植：2007年11月28日



【評価】

他社S種は球内抽苔があり芯が伸びて曲ってしまっていました。切ってみないとわからず、選別に困難をきたしていました。「来喜」の場合は、芯の伸びがわずかで、問題なく出荷出来ました。

キャベツ生産者 Yさん(古河市)

8年前からお仲間4人と協力して大手業務用野菜加工会社との契約栽培でキャベツを栽培しています。2007年に試験で栽培した「来喜」が業者の目に留まり、採用が決定、2008年も継続して栽培しました。



【評価】

- ①玉の締まり大変良い。
- ②玉の揃いが良い。
- ③巻きが強いいため、見かけより玉に重みがあるようだ。

播種:11月30日 定植:2月7日 収穫:5月16日(マルチ・トンネル栽培)

栽培上の注意点

「来喜」は、温度上昇期に結球するため、割れに注意し、早めの収穫を行うことが大切です。

有機肥料、CDU肥料など肥効が一気に出ない肥料を使うことで、裂球開始時期を遅らせることも可能です。